

あしがき

著者	河合 洋尚
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	136
ページ	325-325
発行年	2016-03-22
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008562

あとがき

本書は、2015年1月24日～25日にかけて開催した国際フォーラム「中国地域の文化遺産—人類学の視点から」の成果出版物である。このフォーラムでは、日中より集まった14名の発表者、5名のコメンテーター、2名のディスカッサントにより、中国の有形・無形の文化遺産についての議論をおこなった。また、本フォーラムは一般公開をして社会に発信することも目的としていたため、研究者以外の参加者も少なくなく、様々な立場からの活発な意見交換もなされた。本書の各論文は、フォーラム開催前に各発表者より提出いただいたプロシーディングに基づいているが、こうして意見交換なされた内容を加味し推敲したものとなっている。また、本書では、2名のディスカッサントによるコメントも掲載した。本書の編集にあたっては、主に河合が原稿の収集と整理を、飯田が全体の総括およびディスカッサントのテーブル起こしと整理をおこなった。

こうして本書を皆様にお届けできることになったのは、国際フォーラムの開催にご尽力いただいた関係者の皆様のおかげである。フォーラムにおいて開幕の挨拶をしていただいた須藤健一館長、司会を務めてくださった塚田誠之先生、韓敏先生、吉田ゆか子先生、宮脇千絵先生、およびコメンテーターを務めてくださった長谷川清先生、横山廣子先生、野林厚志先生、稲澤努先生、梶丸岳先生には、深くお礼を申し上げたい。また、外来研究員の奈良雅史先生には、司会を務めていただいただけでなく、本フォーラムの準備や運営においてもご助力いただいた。惠州大学の横田浩一先生にも日本語校閲でお世話になった。さらに、本書の出版にあたり貴重なコメントをいただいた匿名査読者の先生、および編集実務にあたられたスタッフの皆様にも感謝を申し上げたい。最後に、本企画と編集出版は、国立民族学博物館機関研究「文化遺産の人類学」の助成があって実現したことを謝意とともに申し添えておく。

これまで中国地域の文化遺産をめぐる様々な議論が展開されてきたが、特に日本では人類学の視点からのアプローチが少ない。もちろん中国地域の文化遺産をめぐる人類学的研究は、まだ端緒についたばかりであり、いくつかの課題が存在することは本書でも示されている通りである。しかしながら、本書の視点と事例は今後、同テーマの議論の1つの出発点となりうると信じている。本書の出版が中国地域の文化遺産をめぐる人類学的研究を推進する一助となることができれば、それに勝る喜びはない。

河合 洋尚